

## 平成24年度における永生会南多摩病院リハビリテーション科の取り組み

医療法人社団永生会南多摩病院リハビリテーション科

井出 大、大淵康裕、今村 渉

### 【はじめに】

平成24年度、南多摩病院は大きな変化を迎えた1年となった。5月には地上8階、地下1階の救急棟が竣工し救急医療センター、循環器センターが開設され、当リハビリテーション科も7階にリハビリテーション室が移転となった。また8月より心大血管リハビリテーション料算定の施設基準の取得も行った。このような変化の中での取り組みについて報告する。

### 【南多摩病院の概要】

当院は地域医療のなかで急性期医療の役割を担っている。平均在院日数は14.9日となっており、許可病床数は170床（小児科10床含む）、標榜診療科は内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、循環器科、外科、消化器外科、整形外科、泌尿器科、小児科、救急科、透析科、眼科、女性総合診療科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科である。

### 【平成24年度の取り組み】

#### 1) 入院・外来患者様におけるリハ処方の増加と人員の拡充

昨年度からの常勤整形外科医2名体制により、整形外科疾患の外来および入院患者に対するリハ処方は継続的に増加傾向を示した。また循環器センター開設による循環器科医師の増員と救急医療センター拡充によって、心疾患患者へのリハ処方ならびに救急搬送後の内科系疾患および外科手術後の廃用症候群による処方が継続的に増加した。そのため人員の拡充を図り理学療法士は8名から12名へ増員した。（作業療法士、言語聴覚士は増減無）

#### 2) 病棟担当制の強化

昨年度から導入した病棟担当制をさらに拡充する目的で定例ミーティング（月1回）を開始し、病棟毎での様々な問題点等の問題解決や業務改善、情報共有を図った。特に循環器科の病棟では医師・看護師・リハ科による心リハチームが活動を開始し、内科系の病棟では看護師・介護職と連携し離床を促進する取り組みが開始された。

#### 3) 教育研究活動の充実

学術集会等での演題発表は10演題（前年度比4演題増）、院外での講演・講義は計6件（増減無）、当科スタッフが行った。また臨床実習生の受け入れを積極的に行い、関東圏内の大学・専門学校を中心にPTでは6校11名、STでは1校2名を受け入れた。

#### 4) 地域に対してのサービスの質の向上

東京都南多摩地域リハビリテーション支援センター、八王子言語聴覚士ネットワーク、西多摩リハビリテーション研修会、NPO法人東京多摩リハビリ・ネットへの事務局支援活動を積極的に行った。

#### 5) 診療記録等の電子化

3月よりリハビリテーション支援システムを導入し、各種記録類の電子化を行った。